



**12月2日（土） みさき健康フェア
岬地区社会教育推進委員会・岬小学校**

岬地区社会教育推進委員会は、12月2日（土）にみさき健康フェアを開催しました。岬地区では、6月第の1回社教推で、「みさき健康フェア」を岬小学校の体カテストと合同開催ができないかということが提案、協議されました。9月の第2回社教推では、合同開催を基に詳細が話し合われました。12月2日当日は、岬ふれあいセンター、岬小学校の運動場、体育館を会場に、健康フェア・岬小体カテスト（兼参観日）が合同開催されました。センターでは血圧・骨密度測定、閉眼片足立ち、棒反応等々が、体育館では、立ち幅跳びや上体起こし等が、運動場では50m走、長縄跳び、全員鬼ごっこが行われ、多いに賑わいました。センターへの申し込みは当初15名とのことでしたが、参観日に訪れたお父さん、お母さんが飛び入り参加し、小学生以外の参加者は60名になりました。また常盤中学校の生徒9名がボランティア参加し、サポートをしながら楽しんでいる姿がありました。好天にも恵まれ、岬地区の皆さんは爽やかな汗を流しておられました。



**11月25日（土） 社会教育研修会「ときわ学」
恩田地区社会教育推進委員会・常盤中学校**

恩田地区社会教育推進委員会は、11月25日（土）に恩田地区社会教育研修会を開催しました。この研修会では、常盤中学校の生徒11名が「ときわ学」の成果を発表しました。ときわ学とは、総合的な学習の時間に、宇部市の良さや課題について探究し、地域貢献活動に繋げる学習です。今年度のテーマは、「環境」「スポーツ・運動」「防災・災害」「人権」「地産地消」です。当日は、各テーマにおける「現状」「課題解決に向けて自分たちができること」さらには、より良い課題解決に向けて「地域の皆さんに相談したいこと」という三部構成で提案がなされました。提案後、68名の参加者（常盤中生徒、学運協委員、社教推委員、地域住民、山口大学大学院生）は9グループに分かれて、ワールドカフェ方式で熟議を行い、常盤中生徒の提案は、ブラッシュアップされ恩田地区住民共有の課題になっていきました。「ときわ学」での学びは、連携校の恩田小学校、岬小学校との小中合同総合的な学習の時間発表会で、小学生とも共有されることになっています。



10月25日(水) 船木小・チームオレンジ合同芋ほり大会 船木小学校・船木地区

10月25日(水)に船木地区で「船木小・チームオレンジ合同芋ほり大会」が開催されました。この芋ほり大会は元々、船木小学校の1・2年生が生活科の体験学習の一環として取り組んでいた行事です。この行事に認知症サポートに取り組んでおられるチームオレンジさんが、参加を希望され、実現しました。学運協委員、社教推委員、北部支援チームの皆さんが賛同され、船木地区を挙げての地域学校協働活動になりました。小学生からは、芋を掘り上げる度に大きな歓声上がり、高齢者やサポーターの方からは、大自然の中、子ども達とのふれあい活動に笑顔がこぼれていました。合同芋ほり大会は、学校にとっても、地域にとってもWinWinの活動になりました。社会教育推進委員会の長谷川会長は、少子高齢化の今、「高齢者の皆さんには、いつまでも住み慣れた地域で過ごして頂くことが可能な地域づくりが重要と考えています。それが、船木地区の願いです。」と熱く語っておられた言葉が印象的でした。



2月21日 子どもと大人の探鳥会 西宇部小学校・西宇部社会教育推進委員会

2月21日(火)に西宇部地区では、西宇部小学校、社会教育推進委員会、まちづくりサークルとの協働による探鳥会が、開催されました。参加者は、西宇部小学校2年生45名、地区住民17名です。講師は、西宇部地区在住の崖 登司之様です。当日は、先ず、大人の参加者がふれあいセンターに集合し、開催手順について打ち合わせの後、徒歩にて西宇部小学校近くの岩瀬田堤をめざしました。道中ジョウビタキやメジロたちに出会い、参加者からは歓声が上がっていました。小雪舞う中、参加者の皆さんは岩瀬田堤に到着し、西宇部っ子も生活科の授業として合流し、いよいよ観察が始まりました。双眼鏡等を首にかけ、一生懸命覗く視線の先には、マガモ、オシドリ、アオジ等々たくさんの鳥たちに出会うことができました。全部で13種類の野鳥観察ができました。西宇部っ子は、沢山の野鳥が暮らす西宇部地区の自然と、優しく観察方法を教えてくださる西宇部地区の皆さんが大好きになったに違いありません。地域学校協働活動で、鳥の生態について学び、観察を通して人と人がつながる素晴らしい活動が展開されていました。



子ども同士、子どもと大人、大人同士の対戦

同時に二人と対戦される小野さん

一目で分かる駒の進み方

2月9日(木曜日) 子どもと大人の将棋教室
万倉地区 社会教育推進委員会

2月9日(木) 万倉ふれあいセンターで、子どもと大人の将棋教室が開催されました。この教室は昨年9月に始まりました。指導者は宇部警察署 万倉駐在所長の小野能己さんです。万倉地区では昨年、子どもと大人の協働活動に関するアンケートが実施されました。将棋を学びたいという子どもの願いと、将棋の指導が可能とされた小野さんの回答が見事マッチングし、教室開催となりました。当日は子ども7名、大人5名、引率の保護者4名の計16名、船木地区からも2家族が参加しておられました。将来の棋士をめざし子ども達は真剣勝負に挑んでいました。小野さんは「教えるのではなく、自ら学び取る」「万倉地区に賑わいを」を大事にしておられるとのことでした。保護者の皆さんは、将棋を通して技と礼儀を学んでいる我が子の姿に目を細めておられました。教室は毎月第2・4木曜日に開催されています。万倉地区以外の参加も歓迎とのことでした。(詳細は万倉ふれあいセンターまで 67-0201)



恩田社会教育推進協議会 学習会

挨拶、作業内容確認

常盤湖を守る作業開始

ホット一息、無事終了

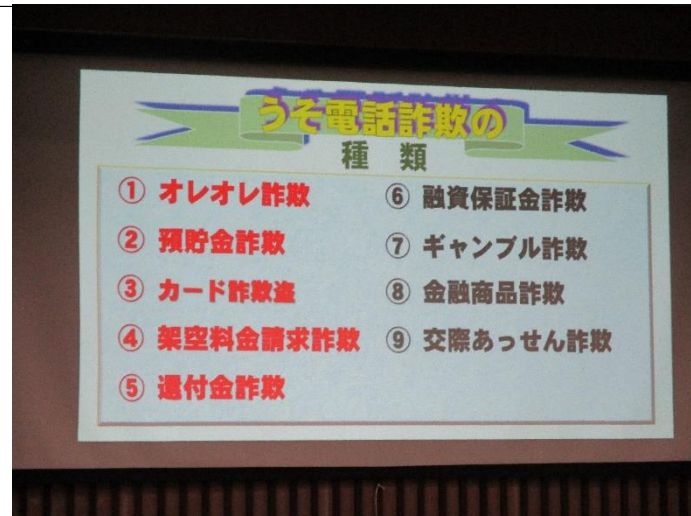
12月18日(日) 「常盤湖本土手保存整備活動」
常盤池(湖)本土手保存有志の会、恩田地区社会教育推進委員会、子ども委員会

恩田地区社会教育推進協議会は、11月26日(土曜日)に、「常盤湖の歴史」について学ぶ会を開催しました。常盤湖は、江戸時代、今から約330年前の元禄期に椋梨権左衛門が中心となって造った灌漑用の湖です。その後、2016年には世界灌漑施設遺産に登録されています。その歴史ある常盤湖を皆の力で守ろうと、12月18日(日曜日)に、「常盤湖本土手保存整備活動」が行われました。当日は小雪舞う凍える天候でしたが、恩田小、常盤小、常盤中、宇部中央高校、ジュニアリーダー、大学生、地域住民等々総勢85名が集まりました。作業は、排水用の水路(天然石を掘削して造られたもの)の確保です。常盤湖が増水した時に、決壊させることなく排水させるための整備作業です。参加者は水路に溜まった落ち葉をかき集めたり、枯れた木や竹を伐採したりという作業に2時間、力を合わせました。作業後は会の皆さんが用意されたお茶や、コーヒーで温まり、互いの検討を称え合っていました。



10月3日(月) 西宇部地区成人学級
「面白くて為になる山口弁よもやま話」 講師 森川信夫様

10月3日(月) 西宇部ふれあいセンターで、社会教育推進の一環として、成人学級の講演会が開催されました。演題は「面白くて為になる山口弁よもやま話」です。講師は、前防府市立防府図書館長の森川信夫様です。山口弁の発音やアクセントの特徴の他、使用例についても紹介されました。「朝から、ちーとししらさみー」や「せっかく来ちゃったんじゃけー、まーお茶なえーと飲んでいっちゃーなえーですか」等々盛沢山です。会場からは「くすっ」と笑ったり「うん、うん」と首を縦に振ったりと、和まれている姿がありました。方言はその昔、中央(都)で話されていた言葉が、口伝えに地方に拡がり、長い年月の内に中央では話されなくなったけど、地方では語り継がれ、方言となったものも多くあることも紹介されました。よって、皆様方は、「昔の都言葉を今尚、大切に話しておられる立派な伝承者ですよ。」と結ばれ、会場は大きな拍手につつまれました。



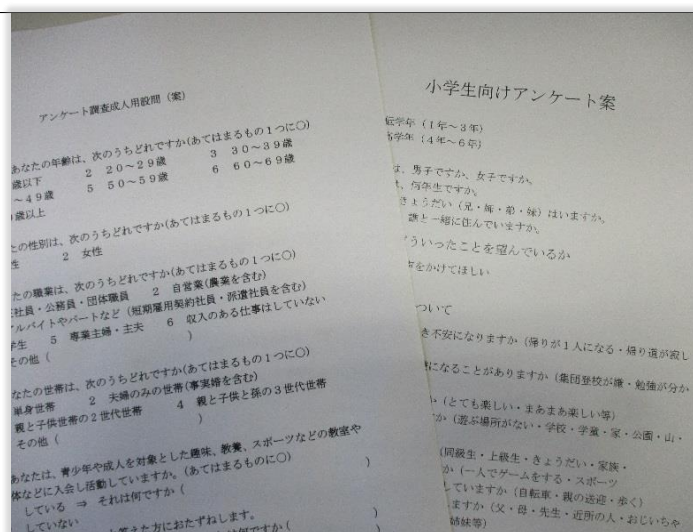
6月25日(土) 見初地区社会教育講演会
「あなたのお金、狙われていますよ！」

6月25日(土) 見初ふれあいセンターで、見初地区社会教育講演会が開催されました。講演会の題名は「あなたのお金、狙われていますよ！」でした。昨今、テレビや新聞等でも報道されていますように、詐欺被害が多発している状況下、みんなで勉強し被害防止につなげることを目的とした講演会です。最初に『弁護士チューバー』の動画を視聴しました。参加者の皆さんは、巧みな話術に引き込まれる過程を疑似体験されながら学びを深めておられました。その後、山口県警察本部 生活安全企画係の方から、全国、全県、市内の被害状況について説明を受け、被害額の多さに他人事ではないと口々に語られていました。見初地区社会教育推進委員会の梅田会長さんからは、みんなで学び、この見初地区から一人の被害者も出さないことが私の願いですと会を締めくくられました。



1月18日（火） 船木あったか見守りネットワーク
船木地区コミュニティ推進協議会・楠中学校・社会教育推進委員会

1月18日（火） 楠中学校で、船木地区コミュニティ推進協議会長兼、社会教育推進委員会長の長谷川さんから、生徒会の皆さんを対象に、「船木あったか見守りネットワーク」への協力依頼の会がありました。現在、当ネットワークには68社の登録があり、船木地区一丸となって高齢者見守りに取り組んでおられます。「高齢者宅の新聞受けに新聞が数日分溜まっている」とか「高齢者が一人でフラフラ歩いておられ心配」等々、気になることがあれば、学校、包括支援センター、警察、周りの大人に知らせてほしいというものです。楠中学校生徒会としては、代表として聞き取ったことを、全校に伝え取組方法について協議するとのこと。地元業者、金融機関、交通機関の関係者と共に、楠中学校生徒の活躍が期待されます。



1月13日（木） 地域と学校の協働活動の推進について
万倉地区社会教育推進委員会

万倉地区では、8月の社会教育推進委員会で「地域と学校の協働活動」を進めるに当たり、地域住民は何を求めているのか、また、その求めに万倉地区社会教育推進委員会としてどう応えることができるのか協議を進めました。第2回10月6日には、小学生、中・高生、成人の部会に分かれ意識調査を実施されました。部会ごとに調査内容を検討され、第3回 12月15日には、調査内容の取りまとめをされました。第4回1月13日の会では、アンケートの依頼文書、意識調査の最終校正をされ、2月には実施となります。集計結果を地区の皆さんにお知らせし、新年度を目途にできることから行動に移されたいとのことです。高齢化が進むからこそ、子どもを巻き込み「人づくり、つながりづくり、地域づくり」につなげていきたいとの熱い思いで取り組まれています。



12月12日（日） 親子プログラミング教室
新川小学校放課後子ども教室

12月12日（日）新川ふれあいセンターで新川小学校放課後子ども教室が開催されました。今回は、親子でプログラミング教育に挑戦です。講師は新川小学校学校運営協議会長兼、新川地区社会教育推進員の見山友裕さんです。12組24名の親子が、SCRATCHというアプリを活用し、ネコやクマのキャラクターに、方向性（前後左右）と進む距離をプログラムすることにより、指示通りに動かすことを楽しんでいました。足の回転数を変えて歩かせたり、走らせたりするアニメーション機能にも挑戦し歓声が上がっていました。放課後子ども教室は本来、放課後の子どもの活動が主たる活動になりますが、日曜日という休日に活動を拡大することにより、プログラミングを通して親子の話し合いやふれあいを深め、創造性を高める場になっていました。



11月7日 神原コミュニティ・社教推共催の「神原地区文化祭」を影で支える神中生
神原地区・神原中学校

11月7日（日）、神原地区コミュニティ並びに社会教育推進協議会共催による「神原地区文化祭」が、当地区ふれあいセンターで開催されました。神原チャレンジクラブの活動状況の紹介や神原小・中学生の習字や絵画作品、神原地区にお住いの方からの写真展、絵画作品展、手作り小物展示等々、所狭しと名作が並びました。また野外では、手作りケーキコーナー、ぜんざい販売、健康チェックコーナー、屋外ステージと盛りだくさんのアトラクションが展開され、にぎわっていました。文化祭開催に当たり、事前準備として展示ボードを2階まで運び届けたのは、「神原中学生徒の活躍が影の力」ですと、地域の方からの喜びの声が聞かれました。



10月5日 地域合同地震・火災避難訓練実施
見初小学校

10月5日、見初小学校では地域合同地震・火災避難訓練が実施されました。避難完了後は、社会教育推進委員・学校運営協議会委員さん並びに地区防災の皆さんの働きかけにより、消防車による放水訓練、ゆさゆさ号による地震体験、水消火器による消火訓練、警察官によるパトカーの説明、更には体育館で、過去に発生した地震や火災による災害の状況やその時にどのように自分の身を守るかについての学習をしていました。いつ発生するかわからない災害の様子を見て、体験して、どのように自分の身を守るかについて、しっかりと学んでいました。



7月8日（木曜日） 「1・2年やおや」こもれびの郷にオープン
万倉小学校

万倉小学校1・2年生の皆さんが、5月に社会教育推進委員会の委員さんや地域の皆さんと一緒に植えたキュウリ、ナス、トマト、ピーマン、枝豆が見事に育ち、収穫の時を迎えました。地域の皆さんにも味わっていただくということで、北部支援チームの皆さんのご協力の下、万倉小学校近くの「こもれびの郷」で販売することができました。人気上々で十数分で完売したとのことです。正に地域と学校の協働による活動が展開されています。



5月 7日（金） 野菜の苗 植え付け
万倉小学校1，2年生と地区の皆さん

万倉小学校では、1・2年生が、生活科の学習で野菜作りに挑戦しました。指導者は、万倉地区社会教育推進委員会の河崎会長さん並びに万倉地区の皆さんです。栽培する野菜は、ナス、キュウリ、ピーマン、枝豆、トマトです。肥料は少し臭かったけど、頑張りとお世話をしました。収穫し食べるのが今から楽しみですとのことでした。正に地域と学校の協働による活動です。



1月26日（火）コロナで文化祭が中止になった今
作品による文化交流でにぎあう恩田地区 恩田社会教育推進委員会

コロナの影響で校区祭りや運動会、文化祭等々様々な地域行事を開催することが困難な状況になりました。そのような中、恩田地区では、社会教育推進委員会で何とかできないものかと協議された結果、子どもや大人の作品を通じた文化交流をしようということになりました。社会教育推進委員さんの働き掛けで恩田小学校、恩田ふれあいセンターをはじめ、則貞郵便局、地区内の金融機関で幅広く展示され、街行く人々に楽しまれています。